



プロフィール

(登壇順)



マディウリ・タンディア (モーリタニア)

テンミヤ (NGO) 研究およびプロジェクト・コーディネーター

乾燥地域への配水事業、環境フィジビリティ評価、固形廃棄物や汚水の汚染除去に携わる NGO、テンミヤのプロジェクト・コーディネーター。UNDP の援助を受け、民間企業や地方政府などのステーク・ホルダーと協働しながら都市部と農村部で廃棄物処理事業の管理をしている。

ミーナ・アチャラ (ネパール)

タンカ・ブラサド・アチャラ記念基金 (リサーチ / アドボカシー NGO) 書記長

1987年にウィスコンシン大学で開発学の博士号 (PhD) を取得。1980年代後半から、世界銀行や UNFEM などの国際機関、アジア開発銀行などと共に、女性の労働、特に家事労働の経済的試算に取り組む。他に、ネパール国内の NGO や研究機関にて委員を勤める一方、ネパールの大学で初となる常設の女性学プログラムのアドバイザーを務める。

目黒依子 (めぐろ よりこ)

上智大学総合人間科学部教授

ウエスタン女子大学、東京大学大学院社会学研究科、ケイス・ウエスタン・リザーブ大学大学院修了。社会学博士。1971年より上智大学専任講師、助教授を経て83年より教授。専門は社会学、ジェンダー研究。著書に『女役割—性支配の分析』『個人化する家族』『少子化のジェンダー分析』など多数。1997年より国連婦人の地位委員会日本代表。

山田太雲 (やまだ たくも)

(特活) オックスファム・ジャパン アドボカシー・オフィサー

英国スコットランド、セント・アンドリュース大学卒 (国際関係学修士号)。オックスファム・ノビブ (オランダ) でのインターンシップを経て、2002年8月よりオックスファム・インターナショナル日本事務所 (当時) 職員。現在オックスファム・ジャパンにて政策アドボカシーを担当。主に途上国の貧困者の基礎的サービスへのアクセス権や持続的な生計を営む権利の実現に向け、先進国の開発援助政策の改善や貿易公正化などを求め、政府、メディアなどへの提言・発信を行う。現在、「2008年G8サミットNGOフォーラム」の運営委員として、G8北海道洞爺湖サミットに向けた市民社会の共同活動の展開に携わる。

小野日子 (おの ひかりこ)

外務省 国際協力局 多国間協力課 企画官

1988年3月 一橋大学社会学部卒業、同年4月 外務省入省。1991年 英国オックスフォード大学修了。91年帰国後、リオでの地球サミット、円借款 (インドネシア、タイ、モンゴル等)、インドシナ地域メコン川流域開発、WTO担当等を経て、2000年より2003年まで在米国大使館勤務。2005年4月、経済協力局開発計画課企画官。2006年8月より現職。

ほっとけない世界のまずしさ
* * *
www.hottokenai.jp



UNDP・外務省・2008年G8サミットNGOフォーラム・(特活) ほっとけない世界のまずしさ共催
国際協力機構 (JICA)・国際協力銀行 (JBIC) 後援

“ケア・エコノミー” は成功への鍵か： ミレニアム開発目標 (MDGs) 達成に向けて



MDGs の中間点である7月7日を前に、国連は「達成の状況にはばらつきがあるものの、政府の強いリーダーシップ、貧困削減のために不可欠な分野への公共投資を増やすような効果的な政策と戦略、そしてそのために必要な国際社会からの財政的・技術的支援があれば、MDGs は達成可能である」と述べました。効果的な政策と戦略とは、いったいどのようなものを指すのでしょうか?本シンポジウムは、MDGs の相互関連性と達成のための必要条件を基礎社会サービスとジェンダーという観点から分析します。





プログラム



総合司会： 大崎麻子（開発政策コンサルタント・本シンポジウムコーディネーター）

10:00-10:30

開会の辞

UNDP 東京事務所 村田俊一駐日代表
外務省国際協力局 小田克起審議官
(特活) ほっとけない世界のまずしさ 黒田かをり常務理事

10:30-11:30

基調講演

ウィニー・ビヤニマ
UNDP 開発政策局ジェンダー・チーム・ディレクター
(元ウガンダ国会議員、女性 NGO FOWODE 主宰)

11:30-11:45

質疑応答

11:45-12:45

途上国の NGO からの事例報告

- ・女性の無償ケア労働評価の経験から（HIV/AIDS とケア労働）
（ケニア：エステル・ムワウラ・ムイル）
- ・分析と政策提言：マクロ経済の枠組みにおける家庭内でのケア
（タンザニア：ウス・マリア）
- ・革新的取り組み：ケア・サービスにおける公共セクターと
民間セクターのパートナーシップ
（モーリタニア：マディウリ・タンディア）
- ・無償ケア労働の国家経済への貢献の経済的価値
（ネパール：ミーナ・アチャラ）

12:45-14:00

昼食

14:00-14:30

事例報告への質疑応答

14:30-16:30

パネルディスカッション

「ケア・エコノミーと政策をつなぐプレーヤーたち」
<モデレーター>
目黒依子 上智大学総合人間科学部教授（国連婦人の地位委員会日本代表）
<パネリスト>
ウィニー・ビヤニマ UNDP 開発政策局ジェンダー・チーム・ディレクター
小野日子 外務省国際協力局 多国間協力課企画官
山田太雲 Oxfam Japan アドボカシー・オフィサー



プロフィール

(登壇順)



村田俊一（むらた しゅんいち）

国連開発計画（UNDP）駐日代表
米国ジョージワシントン大学院修士課程（国際政治経済）及び 同大学院博士課程修了。ハーバード大学大学院ケネディスクール管理職特設プログラム修士課程修了（組織管理学専攻）。専門は途上国の紛争問題とそれに関連する援助政策。国連開発計画の各国常駐代表事務所勤務を経て 1999 年、ブータン国連常駐調整官兼 UNDP 常駐代表。2002 年に母校である関西学院大学の総合政策学部教授に就任。2006 年 11 月、UNDP 駐日代表に就任。

小田克起（おだ かつき）

外務省 国際協力局 審議官
大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。1980年4月に経済企画庁入庁。
1996年に国民経済計算部企画調査課長に就任以降、長官官房参事官、通商産業省産業政策局国際企業課長、内閣府政策統括官（経済社会システム担当）付参事官（企画・計量分析担当）、総合研究開発機構総務企画部長等を歴任。2007年7月より現職。

黒田かをり（くろだかをり）

CSO ネットワーク共同事業責任者、(特活) ほっとけない世界のまずしさ 常務理事
現職の前は、三菱重工業株式会社、ニューヨーク市コロンビア大学経営大学院日本経済経営研究所勤務を経て、米国民間非営利団体アジア財団日本事務所にシニア・プログラム・オフィサー、日本副代表として勤務する。1991年にハーバード大学教育大学院より修士号を取得。

ウィニー・ビヤニマ

国連開発計画（UNDP）開発政策局ジェンダー・チーム ディレクター
ウガンダにて国会議員を3期務め、その間に公共会計委員会の副議長などを歴任。1995年にNGO「FOWODE」（民主主義と女性のためのフォーラム）を創設し、「ジェンダーに配慮した予算配分」をウガンダ国内だけではなく東アフリカ全体で推進した。2004年からアフリカ連合委員会「女性/ジェンダーと開発ユニット」のディレクターを務め、2006年11月より現職。

エステル・ムワウラ・ムイル（ケニア）

GROOTS（NGO） ナショナル・コーディネーター
1993年にナイロビ大学を優等で卒業。専攻は経済学と社会学。UNIFEM などの開発機関にてコンサルタントとして勤務。現在は、GROOTS を通して、社会で疎外されている貧しい女性たちが国や国際レベルにおける意思決定プロセスに直接関わることができるようになることを目的とし、ネットワークの構築や能力開発のためのプログラムの運営に従事している。

ウス・マリア（タンザニア）

タンザニア・ジェンダー・ネットワークング・プログラム（NGO） エグゼクティブ・ディレクター
現職に就任前は、同 NGO のトレーニング・能力開発部門の責任者として、ジェンダーに関する様々な能力開発やトレーニング・プログラムを運営。数多くのトレーニング・ツールやマニュアルを開発した。また、HIV/エイズの予算のジェンダー分析、中期地方政府改革プログラムと行動計画のジェンダー視点からの審査、タンザニアの公共支出審議プロセスの評価などに従事。タンザニア政府の政策や政府の意思決定プロセスに影響を与えている。